

花きの県別生産出荷概況(6月見通し)

令和元年5月20日現在
出典:花き流通情報連絡協議会資料

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積 ha	出荷見込み		5月のピーク(%)			主産地		
				期間		出荷総数 千本	京浜地域向 千本	上旬	中旬	下旬			
				(ピーク)	(前年比)							(前年比)	(前年比)
バラ	群馬	施設 (周年)	アヴァランチェ サムライ08 ほか	周年	12.2	987	742	33	33	33	前橋市 富岡市 昭和村		
				(5~11月)	(95%)	(100%)	(100%)						
トルコギキョウ	福島	施設	ホヤージュホワイト クラリスピンク レイナホワイト 他	5~11月	12.2	150	115	20	30	50	JA会津よつば (北会津・喜多方)		
				(7月)	(102%)	(100%)	(100%)						
	千葉	施設	ボヤージュ・シ リーズ等の大 輪系を中心に 多品種	4~8月/10 ~12月	7.2	510	510	30	35	35	館山市 鴨川市 南房総市 (丸山・千倉)		
				(6月/11 月)	(100%)	(100%)	(100%)						
長野	加温 促成 ~無 加温	レイナ系 セレブ系 クラリスP	6月		280	160	25%	30%	45%	ながの 松本ハイランド			
			(6月下旬)	(90%)	(130%)	(130%)							
熊本	施設	ミヨシ系 サカタ系 八江系など	周年	21.6	582	300	50%	35%	15%	熊本市 菊池 やつしろ くま			
			(11~5月)	(102%)	(微増)	(微増)							

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
バラ	群馬	各産地生育順調であり、平年並みの出荷量を見込む。昭和村(中山間地)からの出荷も本格化するため、県全体の出荷量は潤沢となる。病害虫についても、特に問題とはなっていない。	<p>【バラ】</p> <p>(現状) 上旬は母の日の引き合い強く堅調な取り引きとなった。中旬以降はブライダル需要主体、気温の上昇と共に品質の劣化が見られる。</p> <p>(見通し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大田花き: メイン産地は高冷地に切り替わる。輸入品は少量の回り。 ・FAJ: 宴会需要メインの取引続く。 ・東日本: 各産地生育順調で、入荷量は例年並み～微増の見込み。 ・世田谷花き: 入荷量、価格は昨年並みの見込み。 <p>【トルコギキョウ】</p> <p>(現状) 品薄傾向のうえ、元号が変わり婚礼需要の増加で需要が強、高値で推移した。</p> <p>(見通し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大田花き: 茨城、千葉が本格化、長野、福島等高冷地も始まり、数量がまとまってくる。 ・FAJ: 高冷地主体の入荷へ切り替わり、安定した入荷が続く見込み。 ・東日本: 千葉産と高知、北関東産(2番花)が重なり、順調な入荷見込み。 ・世田谷花き: 長野・福島産増加、西南暖地(2番花)も増え、入荷量は潤沢である見込み。 ・東京フラワーポート: 暖地の2番花が生育不良、高冷地も生育遅れのため入荷は少ない見込み。
	福島	生育は若干遅れ気味ではあるが、病害虫の影響も少なく順調。5月中旬から出荷は始まっているが、出揃うのは6月初め以降になるに見通し。	
トルコギキョウ	千葉	ほぼ例年並みの作柄。	
	長野	年々、加温作型が減少で6月の出荷ピークが後傾化している。加えて4～5月の低温で生育もやや遅れている。	
	熊本	6月の出荷量は昨年よりやや多い見込み。現在は2番花の出荷が始まっており、6月上旬がピークと予想される。6月下旬までは出荷がある見込みだが、中旬以降は徐々に減少していく。気温が高く、病害虫も散見されるため、防除の徹底を呼びかけている。	